

## 本当の自分を

弘前市立第一中学校

鎌田 笑歌

孤独とは何か。独りぼちでいることだけが孤独だとは

私は思いません。それはたとえ仲の良い友達や信頼できる部活の仲間に関われていても、時々孤独を感じてしまうことがあるからです。孤独は寂しくて辛いもの。それが私を苦しめます。しかしこの本に出会って、孤独を抱えているのは自分だけではないと気付きました。本を読み進めていく内にもやもやとした心が少しずつ晴れていくような気がしました。

中学最後の駅伝大会に向けてメンバーを募る陸上部部長の榊井。メンバーを集めるだけでも困難なことでしたが、駅伝にかける彼の熱い思いが実を結び、ついに市野中学校は駅伝チームを結成することができました。

設楽、大田、ジロー、渡部、俊介、そして榊井。六人のメンバーはとても個性的で、その誰もが魅力のあるキャラクターです。そんな彼らの良いところは、お互いの長所を素直に認め合っているところだと思います。支え合い励まし合いながらひたむきに走り続ける彼らの姿は、とてもまぶしく輝い

ていました。

この物語の中で特に印象に残ったのは、俊介が渡部に言った言葉です。

「どういのが親友かって難しいけど、自分の中を見せてもいいと思える相手は親友って呼んでもいい気がするんです。」私はこの言葉に心を揺さぶられました。私には仲の良い友達がいます。でも、自分の中を見せるとなると少し抵抗があります。それは「理解されないかもしれない」、「嫌われるかも知れない」という考えがあるからです。それは俊介も同じでした。俊介は悩みを抱えていて、それを友達に打ち明けようか迷いましたが、結局打ち明けることができませんでした。友を失うのは彼にとっても辛いことだったのです。

渡部はそんな俊介に自分の悩みを打ち明けました。今まで誰にも心を開かなかった渡部が悩みを打ち明けたことに対して初めはとても驚きましたが、彼の行動は俊介に心を開く勇気を与えたのだと思いました。

駅伝を通して、六人は変わったと思います。彼らは一人一人孤独な思いを抱えていましたが、それはみんなが「自分をつくらっている」からでした。本当の自分を出せずに、みんなが苦しんでいました。私が孤独を感じるのも本当の自分を出せていないからだと思いました。自分の意見をなかなか口に出せない私は、他の人の意見にただただ賛成しているだけで、自分の意見を言うことがあまりできていません。それに対して駅伝を通して成長した彼らは、徐々に自分の思いをそれぞれが伝えるようになりました。それこそが彼らの仲を深

めるきっかけとなり、チームとして大きな成長を遂げることにつながったのだと思います。私もそんな彼らのように「自分の思い」を伝えられる人になりたい、なろうと決心しました。

この本から学んだことはたくさんあります。その中でもこれからの自分に必要だと感じたのは、「本当の自分を出す」ということです。自分の思いを伝える努力をし続けることで、いつか本当に自分を出せるのではないかと思います。自分らしく生きていきたいです。